

御挨拶

さいたま市立つばさ小学校
校長 浅野 博一

関東甲信越地区各都県より、多数の先生方に御参会いただき、本校の理科教育に御高見を賜れることに、心より深く感謝申し上げます。

かつて、5・6年生を担当した卒業生から、物理学に関する「研究論文」が届きました。彼は、W大学で研究者の道を歩き始め、小学生の頃からの夢である研究ができ始めていることに喜びをかみしめていました。

全て英文で記され、難解な数式がちりばめられている論文でありましたが、「アインシュタインの続きがしたい。」「4つの力を統合してみせる。」と決意をにじませていました。

彼は、小学6年生の時、国語科の授業で、脳内の「ニューロン」と「シナプス」の働きを解説した説明的な文章に強い関心を示していたので、放課後、わたしと一緒に理化学研究所を訪問してみることにしました。そこでは、脳の研究チームが最先端の研究を積み重ねており、彼は、そこで見たニューロンやシナプスの実物の映像が、国語の教科書に出ていた挿絵とそっくりであることに感動し、その光景が決して忘れることができないといいます。

子どもと共に驚き、心躍らせ、問題解決の学びを積み重ねる営みの中で、先の例にみられるような子どもの姿が育ってきたものと確信しています。そして、子ども時代には、子どもの感性に響く、豊かな体験が、知的好奇心や探究心を大きく育むことでしょう。

また、別の5・6年生を担当した卒業生が、「ぼくの研究チームが開発した製品が、もうすぐ、世の中に出ます!」と報告に来てくれたことがあります。彼は、関西にある企業の研究開発部門で、新製品の開発に挑んでいました。

小学生の頃から野球が好きで、中学に進学しても野球部に熱中していた彼は、こう語りました。

「先生、研究してチームで議論していても、“教科書通りの考え”を返してくると、議論が深まらないんですよ…。キャッチボールで例えると、捕りやすい球を投げ返すんじゃなくて、暴投を返してくるような、えっ!こんな考えっていうような突拍子もないような考えを遠慮なく議論すると、新しいものが生まれて来るんです。」

…わたしの大学時代、学生でグループをつくり、「現地調査から、断層を見付け、地図に表す課題」で、露頭から軟らかい層と硬い層を地域から数か所見付け出し、地図上に表れた「軟らかい層」と「硬い層」の分布の状況から、「1本の断層線」を地図に表して提出したところ、教授から呼び出しを受け、激しく叱責された事を思い出します。

「学生が5人も集まって、なぜ、1本の断層線に意見がまとまるのだ!5人集まれば、5通りの考えがあって、いいはずだ!もっと自分の考えを主張したまえ!」

子どもたちにも、集めた事実から自分の考えを主張し、互いの考えを表現し合う中で、より確かな科学的な考えを構築していったほしいと願います。

「主体的な問題解決を楽しむ子どもの育成」に向け、理科を中心に、全教職員が様々な教科で授業改善に取り組んでまいりました。令和6年6月に委嘱を受け、まだ、1年4ヶ月と取組期間は短いですが、この間、十文字学園女子大学 教育人文学部 児童教育学科 教授 塚田 昭一 様に御指導を賜りましたこと心より深く感謝申し上げます。

本日、参会者の皆様、助言者の方々より賜りました御指導・御助言を基に、全教職員一丸となって、さらに、つばさの子どもたちへの日々の授業を充実させていくことをお誓い申し上げ、あいさついたします。

◆校舎南側と校舎北側のヘチマの育ち方
【B区分の学び】 あるがままの自然の状況から考察する



校舎南側のヘチマ



校舎北側のヘチマ